

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05595

研究課題名(和文)急性期病院における認知症看護卒後研修プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development and evaluation of postgraduate dementia nursing training program at acute hospitals

研究代表者

グライナー 智恵子 (Greiner, Chieko)

神戸大学・保健学研究科・教授

研究者番号：20305270

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円

研究成果の概要(和文)：研修プログラムの評価指標作成に向け、概念分析により急性期病院における認知症看護Competencyの概念を明確化した。次に、急性期病院に勤務する看護師へインタビュー調査を実施し、急性期病院における認知症看護実践能力を質的に明らかにした。

概念分析と質的研究で明らかになった認知症看護実践能力を基に急性期病院における認知症看護Competency評価指標を開発した。Virtual Realityを活用した認知症看護実践場面3事例を制作し、これを基にグループワークと個人リフレクションを行う認知症看護卒後研修プログラムを開発した。開発した評価指標をアウトカムに設定しプログラムの効果検証を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療を受ける認知症高齢者が増加していく中、認知症患者をケアする看護師の認知症看護に関する実践能力向上は重要な課題である。本研究では、認知症看護実践能力の明確化とその能力を測定する尺度を開発した。国内外において、看護師のCompetencyに関する概念の明確化や尺度開発はなされているが、認知症に特化した概念の明確化や尺度開発は行われておらず、本研究は学術的意義のある研究成果を得られたものとする。また、認知症看護実践能力向上のためのプログラムを開発し、その有効性が検証されたことは、今後の急性期病院における認知症看護の質向上に寄与するものであり、社会的にも意義のある研究成果と考える。

研究成果の概要(英文)： To develop an evaluation index, we clarified dementia nursing competency in acute hospitals by conducting a concept analysis. We interviewed nurses, Certified Nurses in Dementia Nursing, and Certified Nurses Specialist in Gerontological Nursing, and qualitatively elucidated competency for dementia nursing in acute hospitals.

Based on the dementia nursing competency clarified by the concept analysis and qualitative study, we developed a scale of dementia nursing competency in acute hospitals. Three original dementia nursing practice episodes taking advantage of virtual reality were produced and based on the episodes, we developed a dementia nursing training program comprising group work and personal reflections. We evaluated the effectiveness of the developed program using the developed scale.

研究分野：老年看護学

キーワード：概念分析 Virtual Reality 尺度開発 Mixed Methods 認知症 看護 急性期 プログラム開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

認知症高齢者に関する研究は、これまで介護施設や在宅ケアを中心に行われてきたが、医療技術の進歩や高齢患者の増加により、近年は急性期病院における認知症看護が注目されてきている。しかしながら、急性期病院における認知症看護の確立に向けた取り組みはまだ緒に就いたばかりであり、今後の更なる高齢化と認知症患者の増加への対応に向けて、早急な認知症看護の確立が望まれている。

厚生労働省は、認知症施策推進5か年計画(2015年より認知症施策推進統合戦略:新オレンジプラン)に基づき、平成25年より認知症対応力向上研修事業を推進している。認知症地域医療支援事業実施要綱では、都道府県主体で病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修事業が進められている。これはすでに研修達成目標値も示されており、今後各医療施設で本取り組みが活発化していくものと考えられる。この研修における標準カリキュラムには、知識、対応力、連携(多職種、院内外)に関する内容が示されており、看護師もこの内容に沿った形の研修を受けるものと考えられる。しかし、これは病院の医療従事者一般に向けた研修であることから、認知症患者に直接的に、また最も身近で24時間継続して関わる看護師については、独自の研修内容を検討していく必要がある。

認知症看護の質向上のためには、急性期病院で働く看護師に求められる認知症看護の実践力、アセスメント力、コミュニケーション力など、看護師が必要とする認知症看護のCompetencyを明確化し、より効果的な認知症看護実践に向けた研修や教育を実施していくことが喫緊の課題である。また、そのために必要とされる研修内容を卒後教育研修ラダーに組み入れ、認知症看護実践力の向上にむけ看護部全体で取り組むと共に、研修効果を明確にするための認知症看護Competencyに対する客観的評価指標を作成していく必要がある。

研究代表者はこれまで継続して認知症高齢者に関する研究を進めてきた。具体的には、認知症高齢者の徘徊行動に関する研究、在宅認知症高齢者を支える家族に対する支援システムの検討(科学研究費補助金 基盤C)、診療所スタッフと認知症看護認定看護師が協同して取り組む認知症高齢者の在宅支援(科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究)、高齢者ケアの質保証を推進する国際比較研究(科学研究費補助金 基盤B)における認知症看護3ヵ国比較などである。特に最近実施した3ヵ国比較調査では、急性期病院での認知症看護に関する質問紙調査を実施し、認知症患者に対するアセスメント力や積極的コミュニケーションが看護師の認知症患者に対する関心の度合いに関連していること、精神的余裕が家族支援、認知症患者の痛みのアセスメント、認知症患者の状況に合わせた対応に関係していること、今後の課題として基礎知識の学習や尊厳を大切にケアを実施していくことの必要性、家族ケアを充実していく必要性など、多様な学習ニーズがあることを明らかにした。これらの結果から、急性期病院における認知症看護教育の必要性と、単発の研修ではなくシステムティックに継続教育を実施していくことの必要性を認識した。

2. 研究の目的

認知症高齢者の増加に伴い、急性期病院で治療を受ける認知症患者も増加の一途を辿っている。認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)では急性期病院に勤務する看護師、医師に対する認知症対応力向上研修事業が推進され、その後の認知症施策推進統合戦略(新オレンジプラン)では、認知症の容態に応じた適時・適切な医療等の提供が明示されている。従って、認知症看護を行う上で看護師に求められる実践力やアセスメント力の明確化、そしてそれらを習得するための効果的な研修内容とその評価方法を構築していくことは喫緊の課題である。本研究の目的は、急性期病院で働く看護師に必要とされる認知症看護Competencyを明確化し、これを高めるプログラムを開発してその効果を検証することである。

3. 研究の方法

目的達成のために、以下の4つのPhaseにより研究を実施した。

Phase 1: 急性期病院における認知症看護Competencyの明確化と事例検討会の実施

MEDLINE, CINAHL, PsycINFO, CiNii, Google Scholar を用いて急性期病院における認知症看護Competencyの概念分析を実施した。文献検索により144の文献を抽出し、選択基準と文献の内容から、最終的に29文献を分析の対象とした。選択した文献から、急性期病院における認知症看護Competencyの属性、先行因子、帰結の構成要素を明らかにした。また、急性期病院に勤務する看護師・認知症看護認定看護師との事例検討会を実施し、認知症患者に対する具体的な対応方法や課題についてのデータ集積を行った。

Phase 2: 急性期病院における認知症看護Competency 評価指標原案の作成と信頼性・妥当性の検証

急性期病院で必要とされる認知症看護実践能力を明らかにすることを目的に、急性期病院に勤務する看護師16名を対象に半構成的インタビューを実施した。インタビューでは、実際のケアで大切にしていること、アセスメントの視点、環境への配慮、家族へのケア等について具体的に語ってもらった。インタビューはプライバシーの確保できる個室で実施し、研究参加者の許可を得て録音した。インタビュー時間は40分~1時間程度であった。インタビューデータを逐語

録に起こし、急性期病院における認知症看護実践能力に関連する内容を抽出し、コード化、カテゴリ化を行った。分析の真実性の確保のために、分析の過程で老年看護の専門家 4 名で内容の確認を行った。

次に、文献検討、概念分析及びインタビュー等から得られた結果を統合し、認知症看護 Competency 評価指標の具体的質問項目原案を作成した。5 名のエキスパートパネルにより表面妥当性の確認を行った。内容妥当性を検証するため、39 名の認知症看護認定看護師・老人看護専門看護師に質問紙原案を送付し 17 名から回答が得られた。Content Validity Index (CVI) が 0.8 以上の項目を内容妥当性ありと判断した。

評価指標原案の信頼性と妥当性を検証するため、便宜的に抽出した急性期病院に勤務する看護師 575 名へ認知症看護 Competency 評価指標原案を配布し、170 名から回答が得られた。有効回答が得られた 168 名を分析の対象とした。尺度の内部一貫性を確認するために IT 相関分析とクロンバック 係数を求めた。各質問の弁別力を調べるために G-P 分析を実施した。構成概念妥当性を検証するために探索的因子分析を行い、探索的因子分析で得られた仮説モデルの適合度を検証的因子分析により確認した。統計解析には SPSS と AMOSver.24 を使用した。

Phase3： 認知症看護研修プログラムの開発

認知症患者本人の視点でケアを思考できるように（一人称体験）Virtual Reality (VR) 用いた認知症看護のエピソード 3 事例を制作しプログラムのコンテンツに組み入れた。これは急性期病院に勤務する看護師と定期的にミーティングを開催し、実際の認知症患者への看護場面をシナリオ化、その中から研修に効果的と考えられる 3 事例を選定して撮影を行ったものである。同様に急性期病院の看護師・看護師長・教育担当副看護部長と研究者によりプログラム内容の検討を行い、最終的にアイスブレイク、VR エピソードの視聴、グループワーク、個人リフレクションから成る認知症看護研修プログラムを開発した。

Phase4： 認知症看護研修プログラム効果の検証

急性期病院に勤務する看護師を介入群と対照群に割り付け、認知症看護研修プログラムを 1 回 1 時間程度、月 1 回 3 か月連続して実施した。師長、認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師は対象から除外した。アウトカムは開発した急性期病院における認知症看護 Competency 尺度、認知症の知識尺度、倫理的態度尺度、認知症者に対する肯定的経験尺度であった。介入前、介入後、介入終了から 1 か月後に質問紙調査を実施し効果を検証した。分析には Friedman 検定を用い、群間の比較には Bonferroni の多重比較検定を用いた。統計解析には SPSSver.24 を使用した。

4. 研究成果

(1) 急性期病院における認知症看護 Competency 概念分析

概念分析を実施した結果、急性期病院における認知症看護 Competency は 6 の属性、5 の先行因子、6 の帰結から成っていた (図 1)。

(2) 急性期病院で必要とされる認知症看護実践能力

研究参加者は急性期病院に勤務する 16 名の看護師で、12 名が女性、4 名が男性看護師であった。所有資格として 13 名はジェネラリストの看護師、1 名は認知症看護認定看護師、2 名は老人看護専門看護師であった。参加者の平均年齢 ± 標準偏差

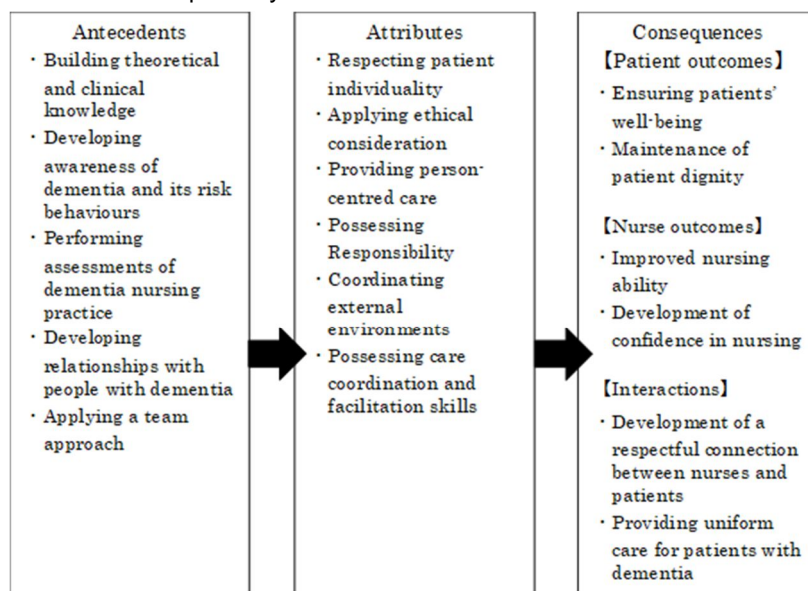


Figure 1. Conceptualisation of dementia nursing competency in acute care settings

(SD) は 34.1 ± 9.3 歳、平均経験年数 ± SD は 11.3 歳 ± 9.5 歳であった。インタビューデータから 47 のサブカテゴリ、13 のカテゴリ、4 のコアカテゴリを抽出した。抽出された認知症看護実践能力には、認知症患者に対するコミュニケーションや尊厳について等、認知症患者と関わるときの姿勢から急性期病院での看護の特徴を踏まえた実際のケア方法までが含まれていた。急性期病院で必要とされている認知症看護実践能力のコアカテゴリは【認知症患者に対する基本的なケア姿勢】【認知症患者が入院中安全安楽に過ごすための対策の実施】【入院前後の生活も踏まえた継続的な視点に添ったケアの展開】【認知症患者に適切なケアを提供するための組織人としての行動】であった。

(3) 評価指標開発

平均年齢は 33.7 ± 7.9 歳、平均勤務年数は 11.1 ± 7.7 年であった。性別は女性 156 名 (92.9%)、69 名 (41.1%) が大学で看護師免許を取得していた。何らかの認知症に関する研修を受講した経験のある対象者は 126 名 (75.0%) であった。

各項目の平均値と標準偏差を計算し、天井効果・床効果について確認した。天井効果のある 26 項目を削除した。床効果のある項目はなかった。尺度の内部一貫性 Internal consistency を確認するため、I-T 相関 (.3 未満は削除) を実施したが、相関係数は .373 ~ .756 の範囲内であり、すべての項目で内部一貫性は保たれていた。クロンバック 係数は .97 であった。次に、各質問の弁別妥当性 Divergent validity を調べるために、G-P 分析を実施した。上位 25%、下位 25% の各項目の平均値の比較を実施した結果、64 項目全てにおいて $p < .001$ で有意であった。64 項目で探索的因子分析を実施し、最終的に 5 因子 44 項目の尺度が完成した。確証的因子分析を実施した結果、モデルの適合度は $GFI = .698$ 、 $AGFI = .664$ 、 $RMSEA = .073$ 、 $CFI = .795$ であった。

(4) プログラムの効果検証

対象者は介入群 20 名、対照群 19 名であった。介入群の平均年齢 \pm 標準偏差 (SD) は 30.3 ± 7.5 、対照群は 31.3 ± 8.8 、平均勤続年数はそれぞれ 8.8 ± 8.1 年、 8.9 ± 8.6 年であった。性別は介入群が女性 16 名 (80%)、対照群が女性 17 名 (89.5%) であった。急性期病院における認知症看護 Competency 尺度 (DNCS-AH)、認知症の知識尺度 (KIDE)、倫理的態度尺度 (EAS)、認知症者に対する肯定的経験尺度 (SEWDR) についてプログラム実施前、実施後、終了から 1 か月後について Friedman 検定を実施したところ、介入群にのみ DNCS-AH と SEWDR について有意差が認められた。群間比較では、DNCS-AH が介入前と介入後及び終了から 1 か月後、SEWDR が介入前と介入後に有意差が認められた。本研究結果より、VR を活用した認知症看護研修プログラムは看護師の認知症看護実践力の向上と認知症患者への肯定的認識の向上に効果的であることが示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tamdee D, Tamdee P, Greiner C, Boonchiang W, Okamoto N, Isowa T	4. 巻 33
2. 論文標題 Conditions of Caring for the Elderly and Family Caregiver Stress in Chiang Mai, Thailand	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Health Research	6. 最初と最後の頁 138-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/JHR-07-2018-0053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamaguchi Y, Greiner C, Ryuno H, Fukuda A	4. 巻 25(3)
2. 論文標題 Dementia nursing competency in acute care settings: A concept analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Practice	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ijn.12732	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto N, Greiner C, Oishi T	4. 巻 3(4)
2. 論文標題 Aging and Care: Attitudes of undergraduate students towards elderly People	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ageing Science & Mental Health Studies	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuno H, Greiner C, Yamaguchi Y, Fujimoto H, Hirota M, Uemura H, Iguchi H, Kabayama M, Kamide K	4. 巻 psyg.12513
2. 論文標題 Association between sleep, care burden, and related factors among family caregivers at home	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 Malathum P, Jeangawang N, Monkong S, Greiner C
2. 発表標題 Nursing Students' Attitude toward Old People in Thailand: A Cross-sectional Study
3. 学会等名 The 24th Nordic Congress of Gerontology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka H, Greiner C
2. 発表標題 Experiences of Unmarried Sons Who were Caring for their Elderly Mothers
3. 学会等名 The 7th Global Congress for Qualitative Health Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林 敦子、渡部貴史、山口裕子、グライナー智恵子
2. 発表標題 健常高齢者に対する二重課題プログラム実施による認知機能と気分の変化
3. 学会等名 高次脳機能障害学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Greiner C
2. 発表標題 Health Promotion for Japanese Elderly Women Related to Long-term Care
3. 学会等名 Gadjah Mada University Winter Course (招待講演)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ryuno H, Greiner C, Yamaguchi Y, Fujimoto H, Hirota M, Uemura H, Iguchi H, Kabayama M, Kamide K
2 . 発表標題 Longitudinal Effects of Sleep Status and Care Burden of Family Caregivers Providing Home care
3 . 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Greiner C, Fukuda A, Ryuno H, Yamaguchi Y, Kurogoushi S
2 . 発表標題 Development and Evaluation of the Dementia Nursing Competency Scale in Acute Hospitals
3 . 学会等名 The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yamaguchi Y, Greiner C, Ryuno H, Fujimoto H, Hirota M, Yasuda N
2 . 発表標題 Risk Factors Associated with Sarcopenia among Elderly People with Type 2 diabetes in Japan
3 . 学会等名 The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Han M, Greiner C, Fujimoto H
2 . 発表標題 Present Conditions and Associative Factors of Social Support among Chinese Elderly
3 . 学会等名 The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Wu Q, Greiner C, Yamaguchi Y
2. 発表標題 Well-being and Health of Family Caregivers of People with Dementia in China
3. 学会等名 The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zhang Y, Shinkai M, Greiner C, Ryuno H
2. 発表標題 Comparison of Education Contents of Care Workers in China and Japan
3. 学会等名 The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Urashima S, Greiner C, Ryuno H, Yamaguchi Y, Okamoto H
2. 発表標題 Nursing care for patients with dementia in acute care hospitals: a qualitative study
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuno H, Greiner C, Yamaguchi Y, Fujimoto H, Hirota M, Uemura H, Iguchi H, Kabayama M, Kamide K
2. 発表標題 Association between feeling of care burden and objective sleep status of family caregivers at home
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Greiner C, Monkong S, Oishi T, Malathum P, Isowa T, Intarasombat P, Kita M
2. 発表標題 Comparison of nursing care at acute hospitals between Thailand and Japan
3. 学会等名 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Greiner C, Tamdee D, Okamoto N, Tamdee P, Isowa T, Boonchiang W, Ryuno H, Kitagawa H
2. 発表標題 Comparison Survey on Family Caregivers of Elderly People in Thailand and Japan
3. 学会等名 IAGG 2017 World Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuno H, Greiner C, Okamoto N, Kitagawa A, Isowa T, Baba Y
2. 発表標題 Association between Burden and Psychosocial Factors for Family Caregivers
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中春菜, グライナー智恵子, 龍野洋慶, 山口裕子, 藤本浩一, 廣田美里
2. 発表標題 息子介護者による介護の現状
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 グライナー智恵子, 岡本菜穂子, 磯和勅子, 龍野洋慶, 北川亜希子, 馬場雄司
2. 発表標題 在宅で高齢者を介護する家族介護者の精神的健康と介護継続意志に影響する要因の検討
3. 学会等名 第22回老年看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 龍野洋慶, グライナー智恵子, 山口裕子, 植村久世, 井口仁, 樺山舞, 神出計
2. 発表標題 在宅における家族介護者の睡眠と介護負担感の関連と影響を与える要因
3. 学会等名 第5回看護理工学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Greiner C, Isowa T, Ryuno H, Yamaguchi Y, Hiramatsu M, Fukuda A, Ouchi T, Tsuchiya A, Yamaguchi M
2. 発表標題 Effects of Dementia Training Program Taking Advantage of Virtual Reality Equipment for Nurses Working at Acute Hospitals
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oseania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuno H, Greiner C, Yamaguchi Y, Fujimoto H, Hirota M, Uemura H, Iguchi H, Kabayama M, Kamide K
2. 発表標題 Within-person Relations between Sleep and Morning Blood Pressure at Home among Family Caregivers
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oseania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamaguchi Y, Greiner C, Fukuda A, Ryuno H
2. 発表標題 Effects of Virtual Reality for Development of Dementia Nursing Competence among Nursing Students in Japan
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oseania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 龍野洋慶, グライナー智恵子
2. 発表標題 在宅における家族介護者の血圧変動と睡眠との関連とその関連に影響する要因
3. 学会等名 第7回看護理工学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口裕子, グライナー智恵子, 林敦子
2. 発表標題 地域在住高齢者を対象とした二重課題プログラムの効果検証
3. 学会等名 第24回日本老年看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Urashima S, Greiner C, Ryuno H, Yamaguchi Y
2. 発表標題 Factors predicting the quality of dementia care at acute care hospitals
3. 学会等名 The 6th World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ryuno H, Greiner C, Yamaguchi Y, Fujimoto H, Hirota M, Uemura H, Iguchi H, Kabayama M, Kamide K
2. 発表標題 Longitudinal Effects of Employment Status on Care Burden, Positive and Negative Affect, and Sleep Status among Family Caregivers at Home
3. 学会等名 The 6th World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Greiner C
2. 発表標題 Supporting the Aging Society in Japan
3. 学会等名 The First South China Sea International Nursing Forum (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Greiner C
2. 発表標題 Establishing and Maintaining International Collaborations
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oseania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 グライナー智恵子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本臨牀社	5. 総ページ数 5
3. 書名 老年医学(下)	

1. 著者名 グライナー智恵子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 13
3. 書名 行動変容をうながす看護	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	磯和 勅子 (Isowa Tokiko) (30336713)	三重大学・医学系研究科・教授 (14101)	
研究分担者	岡本 菜穂子 (Okamoto Nahoko) (30553565)	上智大学・総合人間科学部・准教授 (32621)	
研究分担者	山口 裕子 (Yamaguchi Yuko) (30782148)	神戸大学・保健学研究科・助教 (14501)	
研究分担者	龍野 洋慶 (Ryuno Hirochika) (70782134)	神戸大学・保健学研究科・助教 (14501)	
研究分担者	福田 敦子 (Fukuda Atsuko) (80294239)	神戸大学・保健学研究科・講師 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	槌谷 綾 (Tsuchiya Aaya)		
研究協力者	大内 智恵 (Ouchi Tomoe)		
研究協力者	山口 真依 (Yamaguchi Mai)		